

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月3日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530804

研究課題名（和文）日独教師教育における学際的アプローチの比較研究
—音楽とことばによる統合的文化理解

研究課題名（英文）Cultural Understanding through Music and Literature: A Comparative Study on Interdisciplinary Approaches to Teacher Training in Japan and German Speaking Areas

研究代表者 中地 雅之 (NAKAJI MASAYUKI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：30250640

研究成果の概要（和文）：本研究は、W.ロッシャーが提唱する＜統合的音楽教育論 Integrative Musikpädagogik＞を批判的に検討し、＜音楽＞と＜ことば＞の統合的アプローチから自文化および異文化の理解を促す、教師教育における教授法モデルの開発を行った。ドイツ語圏の研究員の協力を得て、＜受容的教授法＞による4つのプロジェクトと、＜生産的教授法＞による6つのプロジェクトを実施した。研究の成果は、ミュンヘン Gasteig Carl-Orff Saal, ザルツブルグ Schloss Frohnburg, 東京・両国シアターX、東京・ルーテル市ヶ谷センターホール等で公表された。さらに、参加者の質問紙の分析、ドイツ語圏の研究協力者のレビューから、各実践モデルの教育的意義と有効性を省察・実証した。

研究成果の概要（英文）：This Research is based on the “Integrated Music Pedagogy” theory of W. Roscher, which is one of the most important concepts for music education in German-speaking areas after 1945. Four didactic models for aesthetic reception and six didactic models for aesthetic production were developed and practiced, stimulating cultural understanding among students and teachers in teacher training through music and literature. The results of these projects were presented and performed at Carl-Orff Hall in Munich, Castle Frohnburg in Salzburg and Theater X in Tokyo, among others.

Participants in these projects (students and teachers alike), along with cooperating researchers and musicians at Music College in Munich and University Mozarteum in Salzburg gave positive reflections on the projects.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：音楽科教育学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：教師教育 ことばと音楽 ドイツ語圏 比較研究

1. 研究開始当初の背景

本研究は、下記の3つの教師教育における課題を背景に構想された。

(1) 音楽教員養成および現職教員教育における実践モデル開発の必要性

近年の学校教育における諸問題の改善のために、教員養成カリキュラムおよび現職教師教育の再検討が、音楽科教育研究の直面す

る課題の一つとして捉えられている。〈免許更新制〉の導入と実施は、その必要性を端的に現している。各種学校における教科教育の改善のためには、〈教師教育〉の領域での新たな課題に関する実践モデルの研究開発が求められている。

(2) 音楽科教育における学際的教育アプローチ開発の必要性

時間芸術である音楽教育において、〈ことば〉や〈動き〉と相互に関連した表現形態は、音楽表現の根幹に位置づけられるものとして重視されている。ドイツ語圏の芸術教育においては、20世紀初頭よりカール・オルフ Carl Orff のシュールヴェルク Schulwerk 等を通じて統合的な教育アプローチが開発されてきた。日本においても、総合的・横断的学習が学校教育に導入され、学際的アプローチによる音楽科教育の研究と開発が新たな課題となっている。

(3) 芸術教育における自文化・異文化理解に関する教授法開発の必要性

教育の国際化とグローバル化が進む中、日本の音楽科教育は〈自文化〉としての音楽の再発見に直面している。これらの動向は、日本の音楽科教育においてヨーロッパ音楽を〈異文化〉として再認識することをも余儀なくさせている。ドイツ語圏においては、ロッシヤーの〈統合的音楽教育論〉が提唱されて以降、音楽から〈異文化〉と〈自文化〉の理解を推進するための理論と実践が重ねられている。

2. 研究の目的

以上を背景に、本研究はドイツ語圏の音楽教育における学際的アプローチの理念と実践を検討し、〈音楽〉と〈ことば〉の関連を図った日本の教師教育における教授法を開発することを目的とする。即ち、教員養成課程の学生と現職教員等を対象に、〈音楽〉と〈ことば〉の二面から〈自文化〉と〈異文化〉の理解を統合的に深化させる教授モデルを構想し、その実践と省察を行う。

本研究で提示される教授法モデルは、国内の教師教育における実践的展開の基礎的研究としての意義を有し、さらに国内外の各種学校における児童・生徒を対象とした教育実践への波及が期待されるものである。

3. 研究の方法

本研究では、理念的基盤として、ドイツ語圏の1945年以降の代表的な音楽教育コンセプトの一つに位置づけられている、ヴォルフガング・ロッシヤー Wolfgang Roscher が提

唱した〈統合的音楽教育論 Integrative Musikpädagogik〉を理論的基盤とした。〈統合的音楽教育論〉においては、〈表現媒体の統合〉と〈音楽様式の統合〉から、音楽を各文化のコンテクストから理解するアプローチが提唱されている。本研究では、まずこれらの先行研究を批判的に検討し理念的基盤を構築した(1)。さらに、ドイツ語圏の研究者・演奏家の協力を得て、〈受容的教授法 Rezeptionsdidaktik〉(2)、および〈生産教授法 Produktionsdidaktik〉(3)に関する10の実践的プロジェクトを日本・ドイツ・オーストリア実施し、その内容と成果を省察した。

なお、プロジェクトの実施に当たっては、ミュンヘン音楽・演劇大学の DDr. Wolfgang Mastnak 教授、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学の Rolf Plagge 教授、Dr. Michaela Schwarzbauer 教授、Dr. Barbara Dobretsberger 教授などの協力を得た。

4. 研究成果

(1) 理念的基盤の検討

本研究における、教師教育の実践プロジェクト開発のための理論的基盤は、主として2つの方向から検討された。

①統合的音楽教育論のカリキュラム・モデルでは、ロッシヤーの提唱した音楽教育の統合のための5つの方向性を再考した。即ち、地理的統合(地域様式の拡張)、歴史的統合(時代様式の拡張)、表現媒体の統合(音楽外の表現媒体)、学際的統合(他研究分野との協応)、社会的統合(社会集団からの解放)の視点である。本研究では、この中で特に音楽とことばの表現媒体の統合、および日本とヨーロッパとの地理的統合に着目した。

②ことばと音楽の統合的アプローチに関しては、オルフ・シュールヴェルクの基礎的音楽 Elementare Musik—ことば・音楽・動きが未分化な表現形態と、それぞれが分化した表現形態を再統合する〈生産的教授法〉、文学と音楽の領域から学際的に〈受容教授法〉する統合的音楽教育論から学習モデルを構想した。さらに、ことばの表現形態と音楽の構成要素の2つの視点から、本研究におけるプロジェクトを整理し位置づけるための指標を提示した。なお、〈受容的教授法〉には、〈生産的教授法〉には鑑賞・演奏・学際的アプローチが、後者には即興・創作・マルチメディア的アプローチが含まれる。

(2) 受容的教授法 Rezeptionsdidaktik に関するプロジェクト

受容的教授法においては、ドイツ語圏の研究者・演奏家の協力を得て、〈音楽〉と〈ことば〉の関連から、西洋芸術音楽を日本における異文化として統合的に捉え直すための

4つのプロジェクトが実施された。(表1)
 これらは、ドイツ語圏の音楽教育学の研究者の協力を得たプロジェクトが2件(R1, R2)、ピアノ演奏家(R3)、音楽学者(R4)の協力を得たものが各1件となっている。各プロジェクトの内容は、下記のとおりである。和歌による、伝統邦楽、G.v.アイネムの歌曲、日本人現代作品の比較演奏・比較鑑賞(R1)。W.A.モーツァルトの「魔笛」のことばと音楽から統合的アプローチに関する教育実践省察(R2)。M. ラヴェル「夜のガスパール」に関する、詩と音楽の統合的な作品解釈・演奏法(R3)。W.A.モーツァルトとF.シューベルトとの歌曲の音楽分析・作品解釈(R4)。以上、演奏・解釈・分析・鑑賞・教育実践など、多岐の活動に及ぶ、教師教育における4つのプロジェクトを実施した。

表1 受容的教授法に関するプロジェクト一覧

<p>R1 和歌による日唄歌曲の比較演奏と鑑賞 対象作品：『日本の書帖 (Gottfried von Einem)』 『恋の歌三首(金田潮兒)』『千鳥の曲 (吉沢検校)』 協力者：Prof. DDDr. Wolfgang Mastnak ミュンヘン音楽演劇大学教授 於：ルーテル市ヶ谷センターホール 2010. 2. 19.</p>
<p>R2 オペラ作品の音楽とことばからの統合的学習 対象作品：Wolfgang A. Mozart『魔笛 (Emanuel Schikaneder)』 協力者：Prof. Dr. Michaela Schwarzbauer ザルツブルグモーツァルテウム大学教授 於：東京学芸大学芸術館ホール 2011. 2. 20.</p>
<p>R3 詩と関連したピアノ作品の演奏解釈 対象作品：『夜のガスパール (Maurice Ravel, Lois Bertrand)』 協力者：Prof. Rolf Plagge ザルツブルグモーツァルテウム大学教授 於：東京学芸大学芸術館ホール 2011. 11. 16.</p>
<p>R4 ドイツ語による歌曲の音楽分析 対象作品：Wolfgang A. Mozart『ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いた時(Gottfried von Joaquin)』 Franz Schubert『冬の旅 (Wilhelm Müller)』 協力者：Prof. Dr. Barbara Dobretsberger ザルツブルグモーツァルテウム大学教授 於：東京学芸大学音楽教育講義室 2012. 4. 09.</p>

(3) 生産的教授法 Produktionsdidaktik に関するプロジェクト

生産教授法に関しては、自文化理解、異文化理解を促す6つのプロジェクトを多様な形態で実施した。(表2)

各プロジェクトの実践対象は、それぞれの内容に応じて異なっている。ドイツ・オーストリアの教育者・演奏家・学生・生徒・児童を対象としたものが3件(P1, P2, P3)、東京学芸大学学生を対象としたものが3件(P3, P4, P6)、国内の現職教員等を対象としたものが2件(P5, P6)、複数の対象者が合同で実施したものが2件(P3, P6)となっている。

これらのプロジェクトでは、日本語のテキストによる音楽の即興・創作を中心に、内容に応じてさらに身体表現、視覚的表現の要素を加えている。対象とするテキストは、複合的な文化理解を促すという点から「民話」に着目し、「浦島太郎」(P1, P2)、「かぐや姫」(P3)および、宮澤賢治が再構成した「ざしきぼっこの話」(P6)を取り上げた。また、日本の自然をとりあげた草野心平の詩(P4)、仏教的な世界観を持った宮澤賢治の童話「やまなし」(P6)、日本伝統音楽からの影響も受けている宮澤賢治の歌曲(P4, P6)も取り上げた。P5では、ことばから出発する、日本の伝統音楽の要素を有しているわらべうたの旋律創作をとりあげた。

なお、P1, P3, P5は、90～120分の短時間のワークショップとして、ザルツブルグ(P1, P3)と茨城(P5)で実施した。また、P2, P4, P6は、数ヶ月の準備期間を経たプロジェクトで、ミュンヘン Gasteik Carl-Orff Saal (P2)、ザルツブルグ Schloss Frohnburg(P4)、東京両国シアターX(P6)で舞台上演を行い、研究成果を一般に公開した。

表2 生産的教授法に関するプロジェクト一覧

<p>P1 日本民話によるインプロヴィゼーション 「浦島太郎 A」 学会名：26. Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung 第26回国際多元美学学会 於：BORG-Nonntal, Salzburg 2011. 3. 18.</p>
<p>P2 日本民話によるインプロヴィゼーション 「浦島太郎 B」 研究会名：»Gasteig Elements« Das Education-Programm »opus21 musikplus live in der Grundschule« »ガスタイクエレメンツ«教育プログラム» 作品 21 音楽プラス小学校における実演 於：Carl-Orff Saal Gasteik München 2012. 7. 24.</p>
<p>P3 日本民話によるインプロヴィゼーション 「かぐや姫」 研究会名：日・唄音楽教育専攻学生による合同ゼミナールワークショップ 於：Universität Mozarteum Salzburg 2011. 3. 30.</p>
<p>P4 草野心平の詩によるインプロヴィゼーション 「自然と人間」 学会名：27. Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung 第27回国際多元美学学会 於：Salzburg Schloss Frohnburg 2012. 3. 22.</p>
<p>P5 ことばとわらべうたによるインプロヴィゼーション 研究会名：茨城県教育夏期研修講座音楽基礎講座 於：茨城県教育研修センター 2012. 7. 23.</p>
<p>P6 宮澤賢治の作品によるインプロヴィゼーション 「やまなし」「ざしきぼっこの話」 研究会名：第10回シアターX国際舞台芸術祭2012, オルフ音楽教育研究会第25回夏期セミナー 於：東京 両国シアターX(カイ) 2012. 6. 16. 東京学芸大学芸術館ホール 2012. 8. 17.</p>

また研究報告書を作成し、全 10 のプロジェクトを、参加者への質問紙の分析、ドイツ語圏の研究協力者からのレビューからさらに省察した。これらにより、本研究で実施された、ことばと音楽の統合的アプローチによる各プロジェクトが、教師教育における<異文化>および<自文化>理解に対して有効であると実証された。また、ロッシヤーが示した6つの指標、評価・認知・選択・想像・提示・コミュニケーションから、研究代表者がプロジェクトの全体を省察し総括した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 中地雅之 : 「宮澤賢治の作品によるインプロヴィゼーション・シアター<やまなし><ざしきぼっこの話>」『子どものための音楽』通信 Vol. 40, pp.35-36 (日本オルフ音楽教育研究会, 2013 年) (査読なし)
- ② 小川昌文, 中地雅之 他 3 名 : 「即興演奏と音楽科教育-改めてその意義を問う-」『音楽教育学』Vol.41-2, pp.89-96 (日本音楽教育学会, 2011 年) (査読なし)
- ③ 中地雅之, 石井ゆきこ 他 4 名 : 「ドイツ語圏の教材と日本における実践の可能性」『音楽教育学』Vol.40-2, pp.42-47 (日本音楽教育学会, 2010 年) (査読なし)
- ④ 中地雅之 : 「ドイツ語圏の音楽教育における<現代音楽>へのアプローチ」『音楽教育学』Vol.39-2, pp.60-63 (日本音楽教育学会, 2009 年) (査読なし)

[学会発表] (計 13 件)

- ① Schwarzbauer Michaela, Nakaji Masayuki 他 4 名 : Die soziale Dimension künstlerisch-kreativen Handelns, Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung (IGPE) 29. Symposium, 2013年3月17日, Universität Mozarteum Salzburg (オーストリア・ザルツブルグ)
- ② 今田匡彦, 中地雅之 他 3 名 : 音楽即興と子どもの教育, 日本音楽即興学会第 5 回大会, 2012 年 9 月 22 日, 神戸大学 (兵庫県)
- ③ 中地雅之 (構成) : インプロヴィゼーション・シアター「やまなし」「ざしきぼっこの話」, 日本オルフ音楽教育研究会第 25

回夏期セミナー, 2012 年 8 月 17 日, 東京学芸大学 (東京都)

- ④ 中地雅之 他 4 名 : 日本におけるオルフシュールヴェルクの受容と展開, 日本オルフ音楽教育研究会第 25 回夏期セミナー, 2012 年 8 月 17 日, 東京学芸大学 (東京都)
- ⑤ 中地雅之 (構成) : インプロヴィゼーション・シアター「やまなし」「ざしきぼっこの話」, 東京シアターX 第 10 回国際舞台芸術祭, 2012 年 6 月 17 日, 東京両国シアターX (東京都)
- ⑥ Nakaji Masayuki: Chancen und Probleme der polyästhetischer Improvisation im japanischen Kulturraum, Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung (IGPE) 28. Symposium, 2012年3月23日, Universität Mozarteum Salzburg (オーストリア・ザルツブルグ)
- ⑦ Nakaji Masayuki u.a.: Natur und Mensch – Klangszenenimprovisation zu Gedichten von Shinpei Kusano aus Nordjapan, Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung (IGPE) 28. Symposium, 2012年3月22日, Universität Mozarteum Salzburg (オーストリア・ザルツブルグ)
- ⑧ 小川昌文, 中地雅之 他 3 名 : 即興演奏と音楽科教育-改めてその意義を問う-, 日本音楽教育学会, 2011 年 10 月 23 日, 奈良教育大学 (奈良県)
- ⑨ Nakaji Masayuki, Mastnak Wolfgang, Gourzi Konstantia u.a., Musik mit allen Sinnen hautnah erleben: Urashima Fantasie, Gasteig Elements Das Education-Programm, 2011 年 7 月 24 日, Gasteig Carl-Orff-Saal (ドイツ・ミュンヘン)
- ⑩ Nakaji Masayuki: Polyästhetische Werkstatt - Improvisation nach japanischem Märchen, Internationale Gesellschaft für Polyästhetische Erziehung (IGPE) 27. Symposium, 2011 年 3 月 17 日 Bundes-oberstufen-Realgymnasium (オーストリア・ザルツブルグ)
- ⑪ 杉江淑子, 中地雅之 他 7 名 : 「現代音楽」のゆくえと音楽教育-その可能性を探る(2), 日本音楽教育学会, 2010 年 9 月 25 日, 埼玉大学 (埼玉県)

⑫杉江淑子、中地雅之他2名：「現代音楽」のゆくえと音楽教育-その可能性を探る(1), 日本音楽教育学会, 2009年9月22日, 広島大学(広島県)

⑬中地雅之：オルフ楽器によるアンサンブル, 日本オルフ音楽教育研究会 第21回夏期セミナー2008年7月29日, 東京学芸大学(東京都)

[図書] (計2件)

①秋田桂子, 中地雅之：『劇遊び 脚本&CD&コスチューム』 pp.1-120 (ひかりのくに, 2012年)

②秋田桂子, 中地雅之：『劇遊び 脚本&CD』 pp.1-112 (ひかりのくに, 2009年)

[その他] ホームページ等

<http://www.youtube.com/watch?v=093L-e9zAI4>

<http://www.theaterx.jp/12/120617-120617p.php>

<http://www.orff-schulwerk-japan.com/>
/報告-過去の例会等/2012夏期セミナー/

6. 研究組織

(1)研究代表者

中地 雅之 (NAKAJI MASAYUKI)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：30250640